

# 糖代謝異常妊婦と正常妊婦における母体体組成量および安静時代謝量と出生児体重の関係

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 衛藤, 英理子, 三苫, 智裕, 横畑, 理美, 三島, 桜子, 大平, 安希子, 谷, 和祐, 牧, 尉太, 早田, 桂, 増山, 寿 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/00004039">http://hdl.handle.net/10271/00004039</a>

第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会

<一般口演 2>

### 糖代謝異常妊婦と正常妊婦における母体体組成量および安静時代謝量と出生児体重の関係

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科産科・婦人科学教室

衛藤 英理子

三苫智裕、横畑理美、三島桜子、大平安希子、谷和祐、牧尉太、早田桂、増山寿

**【目的】** 妊婦の体組成量や安静時代謝量と出生児体重との関連は明らかではない。一方で、出生児体重が大きいことは周産期合併症の一因であるが、胎児超音波検査での胎児推定体重は計測誤差が大きく、その予測が難しい場合もある。本研究の目的は、妊婦の体組成量や安静時代謝量の変化が出生児体重の予測因子となり得るかを調べることで、また糖代謝異常の有無により予測因子に違いがあるかを調べることである。

**【方法】** 妊娠 22 週以降に単胎分娩した代謝性疾患のない妊婦 (N 群) 90 名および糖代謝異常妊婦 (D 群) 56 名を対象にした観察研究である。安静時代謝量と体組成量を妊娠前期と後期に測定した。診療録より収集した年齢、非妊時 BMI、出生児体重のデータを合わせて、多変量解析を行った。

**【結果】** N 群・D 群の対象者の年齢は  $34.5 \pm 5.3$  歳・ $34.0 \pm 5.7$  歳、非妊時 BMI  $21.5 \pm 3.1 \text{ kg/m}^2$ ・ $24.7 \pm 4.6 \text{ kg/m}^2$ 、分娩週数  $38.7 \pm 1.3$  週・ $38.5 \pm 1.5$  週、出生児体重は  $3000.7 \pm 405.0 \text{ g}$ ・ $3145.4 \pm 633.7 \text{ g}$  であった。データ収集時期は前期  $12.0 \pm 1.6$  週・ $12.4 \pm 2.3$  週、後期  $35.0 \pm 2.0$  週・ $34.2 \pm 2.3$  週で、安静時代謝量 (REE) は前期  $1443.0 \pm 197.4 \text{ kcal/day}$ ・ $1543.8 \pm 355.7 \text{ kcal/day}$ 、後期  $1580 \pm 202.4 \text{ kcal/day}$ ・ $1716.3 \pm 274.9 \text{ kcal/day}$ 、体脂肪量は前期  $15.3 \pm 6.4 \text{ kg}$ ・ $23.6 \pm 9.3 \text{ kg}$ 、後期  $16.9 \pm 5.8 \text{ kg}$ ・ $22.0 \pm 8.5 \text{ kg}$ 、除脂肪量 (FFM) は前期  $37.6 \pm 3.0 \text{ kg}$ ・ $40.4 \pm 7.1 \text{ kg}$ 、後期  $43.6 \pm 4.7 \text{ kg}$ ・ $46.6 \pm 6.2 \text{ kg}$ 、前期から後期までの体重増加量 (GWG) は  $7.6 \pm 2.8 \text{ kg}$ ・ $5.1 \pm 3.8 \text{ kg}$  であった。重回帰分析の結果、N 群では GWG、妊娠後期 FFM と妊娠前期から後期までの除脂肪量の変化 ( $\Delta \text{FFM}$ ) が、D 群では初期 REE と後期 FFM が出生児体重に関連する因子であった。二項ロジスティック回帰分析では、N 群では  $\Delta \text{FFM} + 7.55 \text{ kg}$  以上 (OR = 5.8)、D 群では前期 REE  $1520 \text{ kcal/day}$  以上 (OR = 6.1) と後期 FFM (OR = 6.8) が出生児体重  $3500 \text{ g}$  以上の予測因子であった。

**【結論】** 母体除脂肪量や安静時代謝量の変化は、糖代謝異常の有無にかかわらず出生児体重の予測因子となり得る。糖代謝異常の有無により予測因子は異なっている可能性が示唆された。